



このころ週末に父と 天気かくすれ 月お日めら
真青空にお陽様がキラキラして 暖かく 過ごし
易い毎日が続きます 松茸も伊那谷の出は 昨年
程には いきせんか まずすの豊作で お客様にも
喜んでいただけ 有難い秋でした。 味覚のあとは

美しい紅葉です 大鹿村の大きな自然、右馬允の小
さな自然 と楽しんで いたかったです。 思います。
黄色から いろいろ赤の ちてきて たんたん 明度が
高くなってました。 50~70頃か庭は 見頃を迎える
のしょうか。

原田芳雄さんの「大鹿村騒動記」の力は 凄まじく
口舌現地巡りというものを 村の青年団が企画し 集
めたお客様を ご案内したり 「テイク・イター」(原田さんの
映画の中で 食堂経営者にならされた)は 歌舞伎
役者である 遠藤由美子さんが 直接経営して 鹿肉の
デトトカレーを 用意し ふるまっています。 今までは
見られない 活気と 湧き立っています。 16日と
30日の 歌舞伎公演は 天候に恵まれ 講堂

ということになりましたが 人気は高く 大勢の方々が 県内外
から来て下さり 熱演する村役者に 観客の掛け声と拍手が
絶え間なくおこり 舞台も 真白にする程に どんたというこ
とです。 30日の 追悼公演には 奥様、お嬢様(麻由み)
も来て下さり (右馬允に泊って下さり、お梅やみと お伝え出来たの
が 何よりでした) 村長から 感謝状が 贈られました。 麻
由さんも 映画に出ていらしたということも じめて知った
訳ですが、 みの屋さんの 店番を して いて 大楠道代さんと「まて〜」
と 追っていった 役を された方でした。 この 追加公演は
1983年(昭和58年)に 春と秋の 定期公演から 始まって 以来
初めてのことで 原田さんの 大鹿村に 賭けて 下さった 情熱が
いかに 大きな ものであるか 改めて 深い 感謝の 思いを 捧げ
ご冥福を 心より お祈り 申し上げます。



ありがとうございます

覚王山・弘法屋の若旦那 片岡さんの 後援された
落語会に ご協力いただき 本当に ありがとうございます
した。 会場 いっぱいの 笑いの 渦の中に 私も 身を 置き
たかた と 残念です。 楽しかった たくさん。 あ
私も 思い切り 笑いたい!!

雀五郎さん 米二さん 片岡さん
お疲れ様で ございます!

